

を知る事が出来る。之れは實に外國許りでなく日本でも然うである。さて東京深川下谷の貧民約三千戸に就いて内務省が調査した時にも意旨、飲酒等の自動的原因に發するものは僅々一割八分に過ぎずして他の大部分は商業の失敗、家族の多人数、賃銀不足、其他の他動的原因に發するものであつたといふ。貧民は決して遊惰ではない。寧ろ多くの金持達に比べては遙かに勤勉である。夫れだのに下世話を言ふ「稼ぐに追付く貧乏なし」の譬へに漏れるのは何故だらう。其處には何等か社會制度の缺陷があるに違ひない。尤もワーナーの如きは貧困の原因は凡て貧民自身の無能力の致す處なりと斷定してゐるが之は絶望して自暴自棄になつた貧民の状態のみを見て彼等の今日に至るまでの経路、即ち彼等の幼時の境遇、教育、家庭の状況か

ら社會に出て如何なる境遇を経て來たかといふ事を聞却した机上の空論である。貧民自身も全然責任なしこは言はぬが大部分は社會の罪である。

▼失業問題

失業が若しも凡て労働者の怠惰から出たものだとすれば、之れは最早問題ではない。然るに多くの失業は他動的、不可抗的のもので、労働者は全力を盡して勞働に從事してゐるにも拘らず失業は彼等の上に黒雲の如くに襲ふて來るのであつた。先づ之を證明するために先年米國総育州の労働組合に於て調査した失業の原因を引用するならば失業の約二分の一以上は職業の缺乏で三割は同業罷業又は工場閉鎖のため、他は天候不良或は原料の缺乏、病氣或は怪我、